

# 女性ドライバー等が運転しやすいトラックのあり方検討会 第1回 検討会 議事概要

## 【座長選任】

- ・鎌田座長を選任

## 【資料1「女性ドライバー等が運転しやすいトラックのあり方検討会の設置について」】

- ・意見は特になし。

## 【資料2「トラック運送業の現況について」】

- ・実数ではドライバーの全体数は大体80万人、そのうち女性は2万人2.5%という状況は長期間変わっていない。
- ・ドライバーの女性の進出状況の割合は大変低い状況である。

## 【資料3「女性トラックドライバー等が運転しやすいトラックのあり方検討企画提案書」】

### ○アンケート関連について

- ・時間的、予算的に可能であれば、アンケートの対象を女性ドライバーだけではなく、運送会社で働く事務職など、あえて女性ドライバーにならなかった人も含めてはどうか。また、いわゆる20代前後の年齢層は今後のトラック業界を担ってほしい世代であるため、アンケートに含めてはどうか。
- ・より女性ドライバーにイメージが近いのはフォークウーマンといった荷役作業を行っている女性。アンケートの対象にフォークウーマンも対象にすると絞り込みやすいかと思われる。
- ・これからドライバーになる可能性が高い方々の母集団があれば教えて頂きたい。

### ○調査結果の検証について

- ・アンケートや実態調査を検証するプロセスを伺いたい。
- ・短期間の事業のなかで「絶対的なコンセプトカー」に係る部分に踏み込むのは難しい。メーカーへのヒアリングや女性ドライバーをはじめ男女問わずユーザーへの調査を行ったとして、そこから「メーカーが考える車」と「車を使う側の考えている車」に起きている溝やギャップが見えてくるだけでも、意味のある検討会ではないかと考えている。
- ・過去のテーマ開発の経緯や結果なども参考にしてとりまとめを行ってはどうか。「女性仕様のトラックを作ればよい」というミスリードが一番良くない。女性だけではなく、みんなが使いやすい車を目指すべき。
- ・過去の良い失敗例などを乗用車も含め業界にヒアリングすることでとりまとめの参考になるかと思われる。

### ○調査のアプローチについて

- ・大型トラックをさらに使いやすくするというのがゴールなのか、女性ドライバーを増やそうというのがゴールなのかによってアプローチが異なると思われる。大型トラックの改良による利便性向上や事故等の低減という意味では有効だと思われる。ただし女性ドライバーを増やすという観点で考えると、大型トラックの長距離といった就業形態等の面でハードルが上がるため、まずは地場の宅配便等で始めていただくことが現実的かと思われる。

- ・女性ドライバーの進出割合を少しでも伸ばしていくことができるかがこの検討会の課題であり、特に車両という面からアプローチしていく。
- ・ただし、もう少し色々な考え方でアプローチも検討していただきたい。

#### 【資料4-1：陸上貨物運送事業における労働災害発生状況】

#### 【資料4-2：平成29年における労働災害発生状況（速報）】

- ・資料4-1の6ページの「女性の災害発生状況」について、転倒、動作の反動・無理な動作のデータがある。運転や直接的な荷役ではなく、ロールボックスパレット等の荷役にかかわる事故が多いのではないかと推測される。

#### 【資料5「トラックからの転落状況調査報告書」】

- ・当該資料から「ヒヤリハットより事故が意外に多い」と読んだ方がよい。
- ・昇降中でも降りるときの事故の方が多い。「降りる」時の状況や、どこを持って降りるのか等を含めて実際に実態把握をしていく事が良いと思われる。
- ・女性は荷台から飛び降りるということはまずなく、座って降りる状況である。
- ・設備はあるが活用されていないケースもあると思われる。そのような面を分析することも実態把握をする上では大切と思われる。
- ・車両の最先端の状況も大切だと思うが、荷台へのアクセスや荷役作業の技術面の最新状況を知りたい。

#### 【資料6「トラックの最新安全技術の紹介」】

- ・ACCの利用の実態は把握可能か。
- ・実際の利用状況のデータは把握していないが、おそらく様々な車両データが通信で集積されているのでACCが作動しているかどうか把握できるかと思われる。
- ・女性だけでなく若年層もこの業界に来ていただけるようにするという本検討会のテーマから考えると、安全技術が義務化された最新車両へ買い替えも大きなテーマではないか。ここでの議論が相応しいかは置いておいて、例えば国による買い替え支援等が考えられれば、トラック業界が広がっていくのではないか。
- ・可能であればトラックの車齢といったデータがあれば提示していただきたい。

#### 【資料7「トラック運送業界における女性雇用促進に関する実態調査報告書」】

- ・回収率が極めて低いのはなぜか。
- ・トラック事業者への調査はほとんどが郵送による書面調査で回収率は約3～4割である。インターネット調査は回収率が大幅に落ちる。当該調査もインターネット調査であるため、回収率の低さは調査実施方法によるものではないかと思われる。
- ・7～8ページにあるように、女性ドライバーが多いのは、運行形態では近・中距離、市内配送、車両の種類では中型、形状ではバン型である。いきなり大型ドライバーを増やすのは難しいと思われるが、どの辺りにセグメントして人数を増やしていくのかを考えなければならない。
- ・女性ドライバーの制服はどのようなものが採用されているか、機能やデザインに加え、統一した制服があるのか、またはある程度自由に自分で決められるのかを含め、聞いて頂きたい。

- ・運転のしやすさというテーマ以外に、少し幅を広げて周辺部分も情報提供だけでもできればよい。トラック協会には、ミドリ安全からの制服等に関する情報をご確認頂きたい。
- ・本検討会は女性ドライバーを増やすということを最終ゴールに、車両面から検討していくという作りではあるが、可能な限り、幅広い視点での意見を盛り込んでいければよい。

#### 【資料8「その他統計資料について」】

- ・中型免許について、普通免許から限定解除取得者と新規取得者を分けることは可能か。
- ・運転免許統計ではそれを区分したデータは確認できていない。
- ・（社）人間生活工学研究センターのデータは購入できるが、今回の議論にはあまり直接的に関係しないと思われる。

#### 【資料9「メーカーヒアリングについて（案）」】

- ・トラクタヘッドについては大型トラックメーカーのヒアリングで聞いて頂きたい。
- ・キャビンのモデルチェンジは約20年ターム。最近大型トラックメーカー4社全てがキャブのモデルチェンジを行ったばかりである。
- ・ドライバーの疲労軽減のため、ATやAMTの比率が非常に高くなってきている。AMTにはクラッチペダルがないことから、女性ドライバーにも非常に優しいのではないかと思われる。今回のヒアリング調査では、このようなペダルやハンドル等の動向について話ができると思う。
- ・バックモニターメーカーは車工会の部会に所属している。「その他の部品」として調査したい。
- ・トラックメーカーヒアリングは個別か、もしくは集合してまとめて実施か。
- ・自工会は4社個別が良いと思うが、車工会は分野別に複数社を集め、グループでヒアリングできればよい。

#### 【その他】

- ・次回検討会は5月で調整したい。

以上